

**今年も、パイン収穫の時期がやってきました！
西表島パイラッドファームより、パイン全国発送致します。**

西表島パイラッドファームって？

西表島の南東側に広がる農場です。

東京ドーム15個分の面積があり、パイン・マンゴーの栽培が行われています。農場内には小さな加工所があり、採れたての果実を使った加工品・ドリンクやお菓子なども作っています。また、ご予約頂ければ、トラクタートレインに揺られ、農場内を見学することもできます！時期により、スナックパインやピーチパインなどパイナップルの収穫体験も出来ます。(こちらも要予約！)



春の優雅な慌しさよ



柔らかな光を浴びた新芽が輝き、所々うす緑色に山が覆われています。農園内では白や黄色、オレンジ・黒・青などの様々な蝶々が次々に現れては、ヒラヒラと飛んでゆきます。手に収まるほどの小さなメジロの合唱が耳を和ませ、シャリンバイ・クチナシの花の甘酸っぱい香りが遠くから漂ってきます。あらゆる動植物が一斉に自己主張をしているかのようです。思わず仕事の手を止め、全身で春を感じます。さあ、短い春を楽しんだら、パインが甘く美味しくなる日まであとわずかです。皆様にパインをお届けできる日を心待ちにしております。

糸芭蕉とバナナ

西表島ではよく見かける景色ではありますが、この糸芭蕉とバナナ、一体、何が違うのでしょうか。莖から繊維をとるための「糸芭蕉」、バナナの実をつける「実芭蕉」。分類上どちらも、バショウ科バショウ属の大型多年草(草なん



ですって!!)で、同じ仲間。糸芭蕉の実も種は多いけれど、食べられるそうですよ。

この島では、芭蕉でつくられる糸は、祭事で使う獅子舞の胴体を作るために利用されています。(ちなみに頭はデイゴの木で作られています。)集落ごとに、オスメス一頭ずつの獅子舞がいて、獅子舞づくりは島の青年たちの重要な仕事となっています。ちなみに糸芭蕉は英名ではジャパニーズバナナといって、耐寒性が強いので、日本国内でいろいろなお場所で見られるようですよ。ぜひ探してみてくださいね。



こんなんでましたけど …

平和なパイナップ畑に何の前触れもなく奴らが帰ってきました！防鳥ネットの下にもぐり込みパイナップを盗み食いしています。10年前の台風13号の翌年に彼らは大挙襲来し、農園に大きな被害を与えました。しかしその次の年、一切姿を見せず、その後も農園内はもとより、私たちが普段生活している中においても、彼らを見かける事がなくなりました。一体、彼らはどこに行ってしまったのだろうか？まさか絶滅してしまったのかとさえ思えたほどで、長い間不思議に思っていたのです。ところが、昨年は10年前と同等に巨大な台風が八重山を襲い、そして彼らが再び現れたのです。どうやら彼らの出現と台風には関係があるようです。台風によって山の中のエサがなくなり、里に下りてくるということが推測されます。それにしても、このヤエヤマオオコウモリ、小さな体でパイナップを豪快に食べます。完食に近いほど“美味しそうに”パイナップを食べてしまうので、農家としてはちょっと憎めないところもあるんです。



島の移動はのんびりと

暖かいく晴れた日、農作業の途中でふと空を見上げると、澄み渡った空の高いところで、2羽のカムリワシが大きく旋回しています。ヒュッヒュッヒュッヒュッ-と甲高い声で会話するかのごとく、豪快に飛び回る様子を見てみると、「あいつらホントに楽しそうだなー。」



」と思い、その下で、ちまちまと農作業している我々人間よりも、食物連鎖の頂点はやっぱり彼らがふさわしいと実感します。そんな彼らは人間を見ても、わりと平然としていて、道路に降りてきては、昆虫やヘビ、カエルなどを捕まえます。しかし、意外なほど動作が緩慢なので、車にひかれてしまう事故が多発しています。イリオモテヤマネコ同様、環境省の絶滅危惧ⅠA類②指定されているカムリワシ。車のスピードは落として、安全運転を心がけていきたいものです。



春を拾いに…。



「各地でアーサ（あおさ）採りが始まりました。」というローカルな沖縄のニュースが聞こえてくると、もう春だなという実感が湧いてきます。海の近くで働く我が家のカミさんは、仕事帰りに潮が引くと、ささっとアーサを採ってきます。（採ってくるというよりも、拾ってくるという感じに近い気がします。）取ってきたアーサは、その日の晩には、アーサ汁として食卓に並び、口いっぱい広がる春の香りを楽しみます。アーサ汁は、沖縄料理の定番ですが、

多くの家庭では、アーサは買ってくるというよりも、採ってくるものという認識があるのではないのでしょうか。では、次回のパイランド新聞は、モズク採り真っ最中のうりずんの季節です。また、お会いしましょう。

